杉並ユネスコ協会会報

152号
2024年
8月31日

Suginami UNESCO Association News Letter

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない
ユネスコ憲章前文より

●心の中に平和の守りを固めよう
●すべての人間の尊厳を重んじよう
●教育・科学・文化の発展に努めよう
●民族間の疑惑と不信をのぞこう
●世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

杉並ユネスコ協会

目次

特集「環境・社会・経済は連動している」・・・・・2
「ユネスコ運動の日」講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
2024 年度総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
広島スタディツアー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
国際中学生交歓会／中学生クラブ・・・・・・・・・・・・・・7
書きそんじハガキ／科学教室／活動予定他・・・・・・8

今さら聞けない
SDGsの本質

今さら聞けない SDGs

環境・社会・経済 は、連動している

SDGs の目的

いまや多くの人に知られ、標語となった「SDGs」。実は、国連193か国全会一致で採択された「Transforming Our World（我々の世界を変革する）」という文章に盛り込まれた言葉です。Transform とは大きく劇的な変化というニュアンスが強い言葉ですが、単なる Change（変化）ではない逼迫した状況が読み取れます。SDGs は、その変革の手段として設定されたものです。私たちは SDGs17 の目標一つひとつに着目しがちですが、本質的な目的は、私たちの世界を根本的に変革することにあるのです。

また、17 の目標は個別のものではなく、非常に密接かつ複雑な相互関係にあります。これを視覚化した「SDGs ウェディングケーキモデル」という概念図をご覧ください（図 1）。

地球を構成する大きな要素を、「環境・社会・経済」の三層に分類しています。そして、各構成要素どれか一つのバランスが崩れるとドミノ倒しのように連鎖し、人間社会に大きな影響を与えるリスクが示されています。

図 1　The SDGs wedding cake
Stockholm Resilience Center より作成

知れば行動につながる SDGs

皆さんは T シャツを買う時に何を基準に選びますか。デザイン？ブランド？価格？どれも大切ですよね。しかし、現代は商品の背景まで知って選ぶ時代です。

例えば、真っ白い T シャツ 1 枚にどのような社会課題があるかを考えてみましょう。まず、製造過程で使われる水の量は 2,900ℓ でバスタブ約 15 杯分に相当します。綿栽培に使用される化学肥料による人体や自然への影響、人権を奪われた環境で働かされる人々、洗濯の際に流れ出すマイクロプラスチックファイバー（合成繊維の場合）、廃棄処分で発生する環境汚染...たった 1 枚の T シャツですが、世界では年間 20 億枚が製造され、排出される二酸化炭素は世界全体の 10%にも及ぶと試算されています。

私たちが商品やサービスを買う時、背景にあることを見ようと意識することが社会課題を解決していく鍵となりそうです。

「知る」ための素晴らしいアイディア　→
The 2 Euro T-Shirt – A Social Experiment

地球の安定性を支えるのは、気候だけではない

脱炭素社会に向け、2050 年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロに。この国際的な目標は地球沸騰化を防ぐためにメディアでも大きく伝えられてきました。気候変動と並んで人類の命を脅かしているとても深刻な課題には、「生物多様性」もあります。

私たちは増大する人口に伴い、貪欲に農地を拡大してきました。森林破壊の 90%が農業目的で改造され、その範囲は地球の陸地全体の 40%を占めています。さらに、大規模な単一栽培を進め、化学肥料の大量使用などによって、わずか 50 年間で地球上の野生生物の 68%を絶滅に追い込んでしまいました（生物多様性政府間組織）。

では、生物多様性が失われると、どのような影響があるのでしょうか。例えば、世界中に未曾有の打撃を与えた新型コロナウィルスにとって、地球は感染拡大させるために最適な環境でした。それは、私たちが作り出した環境です。次々と森林を伐採し、農業を拡大して生態系を崩壊し、地球は回復力を失いました。加えて、人々が密集し汚染された都市。新型コロナウィルスはコウモリに由来するという研究がありますが、人と野生動物の生息距離が近くなったことも問題の一つと考えられています。

つまり、人と動物と環境は密接に連動していることが、皮肉にもパンデミックによって証明されたわけです。驚くことに、この事態は世界保健機構によって事前に予告されていました。なお、WHO では 2050 年までに薬が効かない感染症で死亡する人が激増すると発表しています。

これは、他の種が生きていくための環境を壊してはならないという話ですが、人間同士の関係にも置き換えられるかもしれません。

「プラネタリー・バウンダリー」（地球の限界）

図 2 に示す「プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）」は、人類が安全に活動できる範囲を科学的に分かりやすく示したもので、各国政府や一般社会で広く浸透し、日本政府でも SDGs と共に取り入れられている指標です。

本来、地球には負荷がかかった場合でも自然生態系や海洋などによって自力で回復する力が備わっています。しかし、ある限界点を越えると自力での回復が困難な領域に突入していきます。

9 つの地球の限界要素は、中心（緑色）は安全な空間、限界値を超えた外側（朱色）は外へ向かうほどリスクが高まることを示しています。目を疑うことに、2023 年時点で次の 6 項目が限界値を超過し、地球の回復力に大きな影響を与えていることが発表されました。

①プラスチックや農薬などの化学物質が環境へ悪影響を及ぼす「新規化学物質」、②二酸化炭素濃度の増加により地球温暖化が進む「気候変動」、③森林破壊などにより生物多様性や生態系のバランスが失われる「生物圏の一体性」、④農地や都市拡大のため自然の生態系と回復力が失われる「土地利用の変化」、⑤水道水や湖などの淡水を農業や工業に多量使用して枯渇する「淡水利用」、⑥農地での過剰な肥料使用などで窒素やリンが環境へ多量流出する「生物地球化学的循環」。

これほどの項目が限界点を優に超えていると知ると、不安を超えて絶望さえ抱くかもしれません。でも大丈夫！私たちには、非常に危険な状況から脱した成功例があります。1980 年に南極でオゾンホールが発見された当時、「⑨成層圏オゾン層の破壊」は危険ゾーンの深い領域にありました。オゾン層は、紫外線を吸収して大気を温めてくれる重要な役割があります。パニックに陥った世界各国は一致団結して化学汚染物質を減らし、現在の安全領域へと戻すことができたのです。やればできるのです。

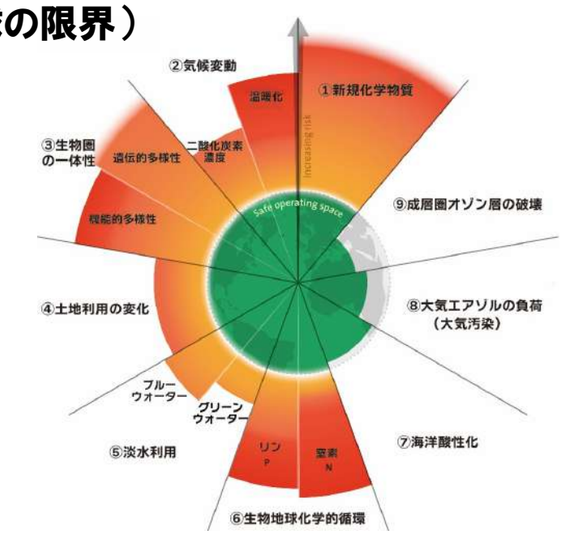


図 2　プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）
Azote for Stockholm Resilience Centre、Richardson ら 2023 の分析に基づき作成

地球 46 億年の歴史上、現在のような人的な要因による危機は例がありません。幸いにも、人類には太刀打ちできない宇宙の摂理ではなく、解決策が科学者たちによって明確に示されているので、取り組むのみ！一つ明確に言えるのは、残された猶予はわずかであることです。

加速する「ネイチャーポジティブ」自然再興の潮流

「ネイチャーポジティブ」とは、2030 年までに生物多様性の損失を食い止め、自然資本を回復させることを目標とした国際的な約束です。我が国でも昨年、「生物多様性国家戦略 2023-2030」が閣議決定され、その実現に向けて進められています。

もとより、私たちの社会・経済活動の大部分は、海洋や森林、草原、湿地などの生態系からの恵みで成り立っています。しかし、わずか 50 年の間に地球が再生できなくなるほどのスピードで自然資本を乱用してきた結果、社会や経済が脅かされてしまいました。

このような流れの中で、国内外の投資市場では、環境や社会、企業統治に配慮している企業を重視した ESG 投資（※）が急拡大しています。そして、利益を追求してきたビジネス界では、ネイチャーポジティブ経営（自然資本の保全を取り込んだ経営）への転換が始まっています。自社の事業を通して、生物多様性と自然資本に配慮した経営が求められていることに疑いの余地はありません。

例えば、「水と生きる SUNTORY」というキャッチコピーに聞き覚えはありますか。飲料メーカーとして原料となる「水」こそが事業の生命線であると捉え、20 年以上もの間、森の再生に奮闘してきた企業です。豊かな天然水を得るには、多様な微生物や草木が作り出す肥沃な土壌や、こまめな間伐による樹木の健康、壊れた生態系の復元、鹿による被害対策など途方もない労力が必要で、本来の事業とはかけ離れたものにも思えてしまいます。しかし、この企業は、森を創ることはボランティアではない基幹事業と位置付けています。

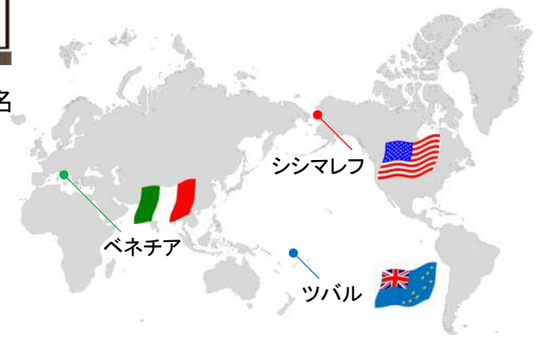
共に社会を創っていく責任の時代です。このような取り組みが当たり前となる日は近いでしょう。安定した地球という環境がなければ、その上に存在する包摂的な社会も持続的な経済発展も成り立たないのですね。

（※）ESG 投資：財務情報に加え、環境（Environment）・社会（Social）・ガバナンス（Governance）に対する企業の取り組みを評価基準とする投資方法

（西野裕代）

考える映画 上映会

7月7日(日)　セシオン杉並　講座室　一般参加55名



杉並ユネスコ協会は、SDGsについて、様々な角度から「共に考える」ことを念頭に、ここ数年講演会、バスツアー、講演会と企画してきた。

そして、今年は、「映画を鑑賞して、共に考えよう」と試みた。選んだ映画は、ドキュメンタリー映画「ビューティフルアイランズ」(監督・プロデューサー・編集 海南友子、エグゼクティブプロデューサー　是枝裕和、2009年制作)。

内容は、気候変動により沈没の危機にある3つの島、南太平洋のツバル、イタリアのベネチア、アラスカのシシマレフ。そこで暮らす人々の日常を見つめ、彼らの大切な故郷と文化に思いを馳せるというもの。

メッセージ性を抑制して、現地で暮らす人々、特に将来影響を被るであろう子どもたちに焦点をあてたドキュメンタリー映画で、環境問題を声高に叫ぶのではなく、3つの島の生活を、ナレーションもBGMもなく淡々と描いていて、観る者の感性に訴える作品だった。ワンカットが長いのだが、映像が美しく、出てくる人々の表情が良かった。特に子どもたちの無邪気な喜びに満ちた笑顔に、「これが失われつつあるのか」と思うと胸が詰まった。

ベネチアは、水の都とうたってきた観光都市なので、高潮に悩んでいる現状にも悲壮感というよりは、国としての対処の遅れが疑問に思えた。シシマレフ島も、凍土が溶けている状況は温暖化を実感させるものではあったが、アメリカがついていると思うと、いずれ対処はされるだろうと思えたが、ツバルは「どうなっちゃうの？」と気持ちが動いた。

ウィキペディアの情報によると、ツバル(ツバル語でTuvalu)は、オセアニアに位置する9つの島からなる立憲君主制国家で、イギリス連邦(コモンウェルス)加盟国のひとつだという。

経済基盤も脆く、津波の時に逃げる山もなく、農耕地というほどの規模の畑もなく、魚を取り、豚を飼って暮らしている生活で、原始的な自然との共生と言えば素晴らしいが、保証の無い生活に不安がないのか、価値観の違いを知った。

映像に映る人々は、老若男女、老人から子どもまでが陽気で明るく、集って歌い踊り、祈る。

英領だったこともあって、97パーセントのツバル人は、プロテスタントのキリスト教の信者で、91パーセントがツバルキリスト教会の信者だそうだ。それは、キリスト教ではあるが、いくつかの現地固有の宗教の要素が混じっているという。「神が見守ってくれているから、心配無用」と己に言いきかせて、明るく考えようとしているが、それが現実ではないと知っているように私には思えた。海面上昇という大問題は、考えても策の見つからない困難だから、とりあえず神に預けようとしているような…。

ここに、地球温暖化の問題の本質があると、私は思う。「私」でも「私たち」でも解決できない、地球規模の困難な事案なのだ。しかも、先送りにした付けが回って、予想よりも早く異常気象の現象は現れている。豪雨に熱波が身近に襲ってきている。危機は待った無しなのに、対策は後手後手。大国の指導者たちの認識と意志に懸かっているとは、あまりにも危うい。

映画終了後、希望者が残って話し合いを持った。1グループ8、9名で4グループに分かれてミーティング。

私のグループには、一人で参加した小学6年生がいた。異常気象問題を学校で学び、もっと知りたくて参加したと言っていた。頼もしい。また、知識も経験も豊かそうな男性から、温暖化は氷河期同様、地球のサイクルの一つでもあるという話も出た。その視点で見ると、人間の存在の小さなこと。でも、私たち人間は、次世代により良い地球を残したいと望み、希求しているので、今回はその視点は持たないことにして、話し合った。

各グループそれぞれ活発な話し合いが行われた。

結論を得るための話し合いではないのだが、「少しでも今起こっていることを、理解したい」「自分にできることは何かを考えたい」等と、意見の交換が行われた。

アンケートの感想にも、「気候変動によって今住んでいる人も住む場所を失うが、子どもたちの明るい未来も失われると思った。自然は素晴らしいが、恐ろしい面もある。その恐ろしい面を生み出しているのは人間なんだと感じました」という意見があった。

「映画が単調なので、眠くなった」という意見もあったが、この映画を選んだ担当としては、予想以上に良い映画で、考えるきっかけを沢山くれる作品に出会えて運が良かったと思っている。

「このように『映画を見て考える』というのは良いことだと思う。また機会を設けてください」というご意見もあった。その意見に便乗するわけではないが、映像の力を借りたイベントも良い方法だなと思わされた。

知り、考え、意見の交換をして、得たものを周りに伝える。細やかな行動だが、続けたい。(辻　邦)

2024年度　杉並ユネスコ協会　総会

5月19日(日)　セシオン杉並　講座室
杉並ユネスコ協会会長　佐藤　直子

杉並ユネスコ協会の2024年度総会が行われました。会員・理事多くの皆様にご参集いただき、誠にありがとうございました。お礼を申し上げます。

杉並区からは岸本聡子区長(杉並ユネスコ協会顧問)、渋谷正宏　教育委員会教育長(同顧問)、本橋宏己　生涯学習推進課長、西澤正光　社会教育センター所長、齋藤尚久　社会教育推進担当係長、および社会教育センター職員の渡邊美紅様・小林友希様にご出席いただきました。心から感謝とお礼を申し上げます。岸本区長・渋谷教育長からはご挨拶を賜り、杉並ユネスコ協会の事業に温かいご賛同と励ましのお言葉をいただき、お力添えをいただいた思いです。また、日頃からユネスコ運動にご理解いただき縁の下の力持ちとして支えていただいている社会教育センターの皆様には、いつも感謝の気持ちでいっぱいです。皆様お忙しい中本当にありがとうございました。

この数年コロナパンデミックの中、人々は生活の不安を抱えて不自由な生活を余儀なくされました。当協会の活動も中止せざるを得ないなど、思うようにできませんでした。そのような中、同時に国際社会でもロシアによるウクライナ侵攻が始まり、イスラエル軍とハマスの戦闘によりガザへの攻撃が始まり、今なお多くの人々が命を奪われ傷ついています。戦いは後を絶ちません。悲しさと愁いを感じる社会の中で、果たして今私たちは何を考え、何をなすべきかが問われる時代となりました。

平和を希求して生まれたユネスコ。その精神を次世代にどう伝えていくのか、杉並の地で考えていきたいと思います。そのための総会であったことを杉並ユネスコ協会皆で確認をし、今後とも活動を続けていきたいと思います。

総会では、昨年度の事業報告と決算、今年度の事業計画と予算を確認し承認されました。また、コロナ禍でしばらく青年部の総会参加はありませんでしたが、今年度は総会後、青年部員より「広島スタディツアー」の報告がありました。青年たちが広島を訪れ、平和について考え伝えていくことは大きな意義があります。とてもよい報告会となりましたことをお伝えします(ツアーの詳細は6頁目)。

青年部

第23回 広島スタディツアー

3月27日（水）～30日（土）　参加者11名　理事2名

青年たちはツアーを通じて戦争と原爆について多くを学びました。ここでは、参加した青年に、広島平和記念資料館で行われた被爆者体験講話の内容を紹介していただきます。

主な訪問先：①広島平和記念公園・資料館（被爆者体験講話、碑めぐり）、②本川小学校、③旧広島陸軍被服支廠、④比治山・放射線影響研究所、⑤江田島・海上自衛隊第一術科学校、⑥宮島・厳島神社

私たちは今回、石橋紀久子さんに被爆体験のお話を伺いました。石橋さんは原爆が投下された当時5歳だったそうです。体験した方のリアルな声を聞くことができ、とても貴重な機会となりました。

原爆が投下された当時、人々は原爆のことを「ピカドン」と呼び、ピカドンが落ちたと言っていました。

石橋さんには小学5年生のお姉さんと2歳7か月の妹さんがいたそうです。お姉さんは縁故疎開をしていて、おばあ様、お父様、お母様、石橋さん、妹さんの5人で爆心地から2.2㎞離れた家に住んでいました。

石橋さんは原爆投下直前まで外出していて、ちょうど家に帰ってきたときに、雷が100個落ちてきたような光の後、聞いたことのない大きい音でドカーンと聞こえたそうです。家に敷かれていた畳が剝れて、地面の土が見えたと話していました。

額と脇腹に怪我を負った石橋さんは、それを診てもらうために家を出ると、町のあちこちから火の手が上がっているのが見え、傷だらけの人々や肌がただれた人を目の当たりにしたそうです。お母様が石橋さんの額に刺さったガラスを前歯で抜いてくれたと語っていました。

夜は少し離れた家のイチジク畑で蚊帳を張って寝たそうです。しかし町で仕事をしているお父様とは会えておらず、学徒の女学生を助けていると人づてに聞いたそうです。

次の日、お母様はお父様を探しに行き、その間石橋さんと妹さんは、おばあ様に付いていき、負傷者の肌にハエが付かないようにうちわで扇ぐ手伝いをしたそうです。その日お母様は帰らず、3人でまたイチジク畑で一夜を明かしたとのことでした。

さらに次の日、8月8日にお母様が戻ってきましたが、お父様を見つけられなかったそうです。負傷者の何人かは広島の軍港・宇品（うじな）の暁部隊（陸軍船舶部隊）へ運ばれていったと言われたため、お母様は宇品まで船で探しに行きましたが、見つけることはできませんでした。

この日、妹さんの背中に丸い跡が2つできているのに気が付いたそうです。このころから放射線の影響で、妹さんや石橋さんの体調が悪化していきました。お父様が見つからず、町中、地獄絵図のような状況に、ついに4人みな声をあげて泣いたそうです。この時までずっと言葉を発しなかった石橋さんと妹さんを見て、声が出なくなったのではないかと心配していたおばあ様とお母様は、少しほっとしたとのことでした。

その後、お父様と再会することができたそうですが、おばあ様は亡くなり、お母様も被爆の症状が出てきたそうです。1995年に81歳でお母様が亡くなり、その2年後には89歳でお父様も亡くなりました。

石橋さんは最後に「戦争はいけません」と力強くおっしゃっていました。終始泣きながらも、訴えかけるように力強くお話しされていて、聴講した青年の中には、ずっと鳥肌が立っていたと話す人もいました。

私にとっては、お話の最後の方におっしゃった「当時のことが頭から離れない」という言葉がとても印象的でした。何十年も経っているはずなのに、当時のことが鮮明に思い出せる、記憶から消すことのできない、想像を絶する恐ろしさを実感しました。

現在は被爆体験者が減り、伝承者を通じて語り継ぐ活動が行われています。しかし被爆体験者の方から直接お話を聞くことが何よりも大切であり、今回のお話が非常に価値のあるものだったと強く感じました。

（青年部　園井瑠利子）

国際中学生交歓会

4月3日（水）、公募で選ばれた区内の中学生が、世田谷区の二子玉川にあるセントメリーズ・インターナショナル・スクールで外国式の授業を体験しました。

この“一日体験留学”は、杉並ユネスコ協会と杉並区教育委員会、そしてセントメリーズ校が連携して、30年以上続けられています。

前日の事前学習（セシオン杉並）を終えた中学生たちは、二子玉川駅からセントメリーズ校へ向かい、緊張の面持ちで校門をくぐりました。授業を受ける前に、セントメリーズ校の生徒が参加者一人ひとりに案内役（バディー）として付きます。バディーのおかげで気持ちの軽くなった中学生たちは、午前2時間、午後1時間、各クラスに分かれて、他の生徒たちと一緒に授業に参加しました。授業はすべて英語で行われます。授業ではセントメリーズ校の生徒たちが積極的に発言し、教える先生も発想を引き出そうと、型にはまらない自由な教え方をされているようでした。その授業の雰囲気に、参加した中学生たちも大変刺激を受けたようです。

お昼にはセントメリーズ校のカフェテリアでランチを食べました。この日のメニューはハンバーガーでした。一日を一緒に過ごし、互いにすっかり打ちとけた様子でした。さらに、お土産として同校のオリジナルTシャツもプレゼントされ、大満足の一日となりました。体験授業を終え、中学生からは「楽しかったし、面白かった」との感想が聞かれました。また、保護者からも今後の英語学習に役立て、意欲を持って取り組んでもらえると、期待する声が寄せられました。今回の体験が中学生たちにとって、海外に目を向ける貴重な機会になってもらえればと思います。（岩野智）

ユネスコ中学生クラブ

4月　開級式
4.13 Sat. セシオン杉並

青年部によるユネスコ紹介

英会話のレッスン

5月　ウクライナ
5.11 Sat. セシオン杉並

講師のイェブトゥシュク・イーゴルさん

6月　スポーツ大会
6.8 Sat. セシオン杉並

一緒にスポーツを楽しんで交流を深める

7月　スーダン
7.13 Sat. セシオン杉並

講師のアブドゥジャナ・ハイデーさん

英会話の様子

募集

ユネスコのつどい
「ビキニ水爆実験とは　日本と世界への影響」

2024年9月29日(日) 13:30～16:30(開場13:00)
セシオン杉並 3階 第8・9・10集会室

杉並の原水爆禁止署名運動70年の節目に、核と平和について考えます

第1部　講演「ビキニ水爆実験とは　日本と世界への影響」(豊﨑博光氏)
第2部　パネルディスカッション「杉並から始まった原水爆禁止署名運動」
(市田真理氏、竹内ひで子氏、安井節子氏、林 美紀子氏)

●参加費無料　●事前申込不要　●定員130名(当日先着順)

募集

ユネスコ料理教室「ウクライナ料理」

2024年11月16日(土) 10:00～14:00
高井戸地域区民センター　料理室

講師　イェブトゥシュク・ナタリア氏
通訳　ヴェレスクン・ヴィクトリヤ氏

●区内在住・在勤・在学の方(中学生以上)
●定員25名(超えた場合は抽選)
●参加費1,200円

※要申込。詳細は「広報すぎなみ」10月15日号をご覧ください。

menu
●グリチャーニキ
(そばの実入りハンバーグ)
●キャベツとクランベリーのコールスロー
●緑のボルシチ
●ウズヴァール
(ドライフルーツの伝統的飲み物)

報告

ユネスコ科学教室
「ドクタートミーのはちゅうるい教室」

2024年3月3日(日) イマジナス
「第9回すぎなみサイエンスフェスタ」に出展

「ドクタートミー」こと富田京一先生に、爬虫類の生態についてお話しいただきました。特別ゲストとしてカメ、イグアナ、襟巻きトカゲ、ヘビなどのお友達も参加し、会場を賑わせていました。2回にわたり実施し、親子連れや学生さんなど、会場いっぱいに約80名の方々に来ていただきました。

報告

杉並ユネスコ合唱団　第44回サマーコンサート参加

主催:杉並区コーラス連盟　共催:杉並区教育委員会

2024年7月6日(土) セシオン杉並ホール

杉並ユネスコ合唱団はコンサートの第1部で3曲を歌いました。「少年時代」(井上陽水)、「グリーンスリーブス」(イングランド民謡)、「AVE MARIA Op.2 No.2」(E・エルガー)。指揮は小澤純先生、ピアノ伴奏は増澤明希子先生でした。本合唱団は四部合唱なので、団員を確保するのもパートを合わせるのも難しいのですが、皆元気に楽しく頑張っています。ぜひ合唱団の練習風景を覗いてみませんか。皆様の入団をお待ちしています。

報告

書きそんじハガキ回収キャンペーン

回収枚数 3,854枚(168,000円分)

区民等の皆様からハガキ3,854枚(切手168,000円分)を回収させていただきました。また未使用切手40,158円分、現金1,568円などもお寄せいただきました。日本ユネスコ協会連盟「世界寺子屋運動」に寄付させていただきます。ご協力いただきありがとうございました。

報告

「原爆と人間」展

主催:杉並光友会

8月8日(木)～16日(金)
杉並区役所 1階ロビー

原爆の恐ろしさを伝える「原爆と人間」展が、杉並光友会(区内の被爆者団体)の主催により、杉並区役所で開催されました。被爆当時の広島と長崎を写した写真や、広島の高校生と被爆者が共同制作した「原爆の絵」などが展示されました。被爆の経験を忘れず、二度と戦争を起こさない。強い平和への思いが伝わってきました。

活動予定

8月 August

3日(土)～8日(木)	ユネスコ教室
25日(日)	科学教室「親子で楽しむハーブ教室」

9月 September

6日(金)	理事会
14日(土)	中学生クラブ(英会話と国際理解)
29日(日)	ユネスコのつどい「ビキニ水爆実験とは」

10月 October

4日(金)	理事会
12日(土)	関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 茨城
13日(日)	中学生クラブ(東京ジャーミイ訪問)

11月 November

1日(金)	理事会
9日(土)	中学生クラブ(英会話と国際理解)
16日(土)	料理教室「ウクライナ料理」
23日(土・祝)	日本ユネスコ運動全国大会 in 愛媛

杉並ユネスコ合唱団練習　※は予定

8月22日(木)	9月12日(木)
9月26日(木)	10月10日(木)
10月24日(木)	11月14日(木)
11月28日(木)	12月12日(木)※

杉並ユネスコ協会会報 152号　2024年8月31日発行
発行者　杉並ユネスコ協会 会長 佐藤直子
事務局　〒167-0043　東京都杉並区上荻2-34-10 山田正方
TEL 090-6105-6633　FAX 03-3399-0339　E-mail suginami@unesco.or.jp
編　集　杉並ユネスコ協会広報担当
口　座　ゆうちょ銀行／記号10040 番号18974381(ゆうちょ銀行間での振込)
店名 〇〇八(ゼロゼロハチ) 店番008 番号1897438(他行からの振込)
みずほ銀行／荻窪支店　普通口座　番号4047995
ホームページ　http://suginami-unesco.org/